

雲の上の桃源郷 まつばら今昔絵巻



その昔は
王印太の
大向

川色鳥の家

山城

中平

中平沈下橋

平家落人が
あちこちに
伝説を
もたらしている。

ようこそ
松原へ

流域で最も早くから
人が生活していた。
縄文時代からの
石器が多数出土。

春は山桜やツツジ、藤の花が彩り
夏は堂の君羊舞、乱舞に酔い
秋の紅葉は静かに山里を染め
冬の雪景色もどこか優しく包みこむ。

禅の高僧(臨済宗)
夢窓疎石が
一時身を寄せた
(1330年頃)
ここで空気が
広がる。

八景とどう
なめらかな溪谷で5月には
トサヅツの群生。きれいな
昔ながらの波がうめつ
とされている。

花流いで
材木を運送
していた。

往還道
窪川～伊予の中継地と
して、多くの旅人が
通行した。
また、塩の道としても
栄えた。

鷹取山
太古のまの回ろ十源流の森

松原の自然や歴史を
のんびりとたねてみよう。

自然の力!!
葉草の宝庫。

55年海上自衛隊機が
一の谷国有林に墜落。
13名が犠牲となる。
○自衛隊殉難の碑

最終章で柳原医師が
山村へ地診療所へ
身を投じ、
国へ帰国に
登場。

小説
白い巨塔
モデル
松原診療所跡

森林セラピーロード
森音 風音 水音

幕末の志士
(1835～1863年)
松原庄屋を務める
吉村虎太郎、那須信吾らと
勤王の志を固め上京。
天誅組挙兵に加わり大和国に
進撃したが、政変により隊は
壊滅し、奈良県桜井市、初瀬で
戦死した。贈従五位。
「い公平無私」の精神。

往還道
わうじとはいって
昔の人はこの道に
行き来していた。

宮の山

いつのまにかお地蔵さまの
向きが変えるという
話が伝わる。

春分峠

久保谷原生林にはじめて
斧が入り伐採が始まる。

久保谷原生林

平安時代、京から伊予
へ来た藤原経高が
津野山郷にすくすく住み
開拓がはじまる。また
神楽など京の文化も
普及する。
戦国時代には
「土佐七雄」
として高岡郡を
支配していた。
のち
長曾我部氏
山内氏と移住する。

1592年
窪川志和城主、志和宗茂が長曾我部
命を受け、伊予からの帰途、松原村で
津野氏家臣、松原蔵入に討たれた
記録が残っている。

前田繁馬

松原を開墾した兄弟
津野氏支配下の時代
松原の開拓がはじまる。
大蔵三良左衛門と
大蔵小平左衛門の兄弟は
力を合わせて松原平野に
広がる田畑を開いた。
(松福寺横に古い功績碑あり)

松原の自然や歴史を
のんびりとたねてみよう。

自然の力!!
葉草の宝庫。

55年海上自衛隊機が
一の谷国有林に墜落。
13名が犠牲となる。
○自衛隊殉難の碑

最終章で柳原医師が
山村へ地診療所へ
身を投じ、
国へ帰国に
登場。

小説
白い巨塔
モデル
松原診療所跡

森林セラピーロード
森音 風音 水音

幕末の志士
(1835～1863年)
松原庄屋を務める
吉村虎太郎、那須信吾らと
勤王の志を固め上京。
天誅組挙兵に加わり大和国に
進撃したが、政変により隊は
壊滅し、奈良県桜井市、初瀬で
戦死した。贈従五位。
「い公平無私」の精神。

往還道
わうじとはいって
昔の人はこの道に
行き来していた。

宮の山

いつのまにかお地蔵さまの
向きが変えるという
話が伝わる。

春分峠

久保谷原生林にはじめて
斧が入り伐採が始まる。

久保谷原生林

平安時代、京から伊予
へ来た藤原経高が
津野山郷にすくすく住み
開拓がはじまる。また
神楽など京の文化も
普及する。
戦国時代には
「土佐七雄」
として高岡郡を
支配していた。
のち
長曾我部氏
山内氏と移住する。

1592年
窪川志和城主、志和宗茂が長曾我部
命を受け、伊予からの帰途、松原村で
津野氏家臣、松原蔵入に討たれた
記録が残っている。

前田繁馬

松原を開墾した兄弟
津野氏支配下の時代
松原の開拓がはじまる。
大蔵三良左衛門と
大蔵小平左衛門の兄弟は
力を合わせて松原平野に
広がる田畑を開いた。
(松福寺横に古い功績碑あり)

松原を開墾した兄弟
津野氏支配下の時代
松原の開拓がはじまる。
大蔵三良左衛門と
大蔵小平左衛門の兄弟は
力を合わせて松原平野に
広がる田畑を開いた。
(松福寺横に古い功績碑あり)

松原と開墾した兄弟
津野氏支配下の時代
松原の開拓がはじまる。
大蔵三良左衛門と
大蔵小平左衛門の兄弟は
力を合わせて松原平野に
広がる田畑を開いた。
(松福寺横に古い功績碑あり)

松原と開墾した兄弟
津野氏支配下の時代
松原の開拓がはじまる。
大蔵三良左衛門と
大蔵小平左衛門の兄弟は
力を合わせて松原平野に
広がる田畑を開いた。
(松福寺横に古い功績碑あり)